

学校名 [虹の丘小学校]

氏名 [飯野 正義]

[小] [1・2・3] 年版

単元名 [生きるためにひつようなもの] P42～43

教科・領域名 「学級活動」 [時間 45分]

主な学習活動 (実際行った活動)

指導の実際

ねらい

人が生命を維持するために必要なものについて理解し、災害時に自分の体を維持に気をつけることができるようにする。

1 東日本大震災で水や食べ物がすぐに手に入らなかったことを思い出す。また、沿岸部では、壊れた家屋の中で、救助が来るまで待ち続けた人々がいたことを知る。

東日本大震災の直後は、大変なことがいろいろありました。どんなことを覚えていますか。

- ・ 水道から水が出なくてたいへんだった。
- ・ お店がほとんど開いていなくて何も買えなかった。
- ・ スーパーにたくさん並んで買い物をした。
- ・ 自動販売機も全て売り切れで何も買えなかった。
- ・ ガスや電気が無くて料理ができなかった。

2 災害用備蓄倉庫を見に行く。

災害に遭ったときに私たちが生きていくにはどんな物が必要でしょうか。予想してみましょう。

- ・ 食べ物、水、家、服等

災害用備蓄倉庫に何があるか調べてみましょう。

- ・ 水…のどが渇いたときに飲むのだと思う。
- ・ おかゆ、乾パン…お腹が空いたとき食べると思う。
- ・ ガスボンベ…料理をするのに使うと思う。
- ・ 毛布…寒いときに使うのだと思う。

資料を読んで、人が生きるために必要な物についてまとめましょう。

- ・ 人が生きるためには、水と食べ物と温かさが必要。
- ・ 水やパンやご飯がなければ、生きられない。

【児童に伝えたこと】

人が生きていくためには、水と食べ物と暖かさが必要である。学校には地域の人のために倉庫の中にたくさんの物があるように、みんなの家でも備えておくことが大切。

3 「こんな時には…」を読み、対応を考える。

資料を読んで、もしもの時にはどうするかを考えてみましょう。

- ・ 動かないで大人の人を待つ。
- ・ 何でも良いから食料を探す。

【児童に伝えたこと】

体をあたたためて、水分と食べ物をとりながら大人の人を待つようにする。

【準備物】 ・パソコン・テレビ・災害用備蓄倉庫の毛布・ペットボトル



- 想起することに抵抗を感じている場合は無理をさせず、児童の心理的負担に配慮した。
- 学校にある災害用備蓄倉庫の場所に行き、そこにある物を確認し、それぞれの物について、必要性を考えさせた。
- 災害用備蓄倉庫にある物をきっかけに、「水」「食べ物」「体温を保つための物」が生きていくためには最低限必要であることを考えさせた。
- 3では、低学年の児童が対象なので、自分で行動するよりも最も安全な状態で救助を待つように教えた。



- 小学3年生の体に含まれる水の量をペットボトルで示し、イメージしやすいようにした。

児童の感想から

- ・ 災害用備蓄倉庫の中を初めて見ました。毛布がたくさんありびっくりしました。人が生きていくのには暖かさが必要なのだと初めて分かりました。家の防災用リュックの中にも入れておこうと思いました。
- ・ 人間の体の中にあんなに水があるなんて思いませんでした。水って大事なんだと思いました。

小学（下） 生きるためにひつようなもの

年 組 氏名

1 さいがいようびちくそこにはどんなものがあるでしょう？ よそうしてみましよう。

東日本だいしんさいのときは、水やたべものをもとめてぎょうれつができたね。生きるためにひつようなことはどんなことだろう…？



2 さいがいようびちくそこにあつたものをかきましよう。



3 人が生きていくためにひつような3つのことは…

1

2

3